

地下ダムが支える宮古島の農業

~国営かんがい排水事業宮古伊良部地区による効果~



地下ダムが支える宮古島の農業

1. 事業の概要

関係市町村：宮古島市

受益面積：9,156ha(畳9,156ha)

主要工事計画：地下ダム2か所、副貯水池1か所、揚水機場1か所
用水路55.0km、水管理施設一式

2. 事業の目的

本事業では、宮古島に仲原地下ダム及び保良地下ダム、伊良部島に仲地副貯水池を新設し、宮古島、来間島及び伊良部島における必要水量(通年かんがい)を確保するとともに、揚水機場、用水路等のかんがい施設を整備し、併せて関連事業により末端かんがい施設の整備及び区画整理を実施して、農業生産性の向上を図ります。



地下ダムが支える宮古島の農業

効果1. “水あり農業”によって宮古島・伊良部島の農作物生産を支援

農業用水の安定供給を図り、島内におけるさとうきび、葉たばこ、にがうり、マンゴー、かぼちゃなどの農産物の生産を支え、農業経営の安定化を図ります。また、水手当によって、営農の自由度を上昇させ、高収益作物への転換を可能とします。

本地域の主な作目



さとうきび



葉たばこ



にがうり



マンゴー



かぼちゃ

ここがポイント！

国営事業で地下ダムやかんがい施設が整備され、雨水だけではなく、水やりのコントロールが可能となり、兼業農家から専業農家に転身した。さとうきびから施設野菜(ゴーヤー、さやいんげん)及びオクラの栽培を行っている。指導農業士の認定をうけて、島内の新規就農者の受け入れを行い、植付から収穫までの営農指導を行っているよ。



地下ダムが支える宮古島の農業

効果2. 営農経費の節減による農業経営の安定化

○水やり作業の省力化

かんがい施設が整備されることにより、水やり作業及び防除作業の作業体系が変化し、労働時間や機械経費を削減することが可能となります。



事業後
→



用水は給水スタンドから
取水しほ場までトラックで運搬

ほ場内の給水栓からチューブ
水やり(かぼちゃ)

○区画整理による作業の省力化

区画整理により作業の効率化が図られ、労働時間や機械経費を節減するこことが可能となります。



区画整理後のほ場



区画整理後の農業機械導入
(さとうきびハーベスター)

ここがポイント！

これまで給水スタンドに水くみに何往復もしていたけど、給水栓がほ場前に整備されたおかげで、水やり作業の労力が軽減された。水運搬用のトラックや散布機械等の整備費や燃料費を考えれば、賦課金(水代)を払った方が断然安い。**水運搬労力が軽減されたことにより、作付面積を増加することができたよ。**



地元農家
(上野)

地下ダムが支える宮古島の農業

効果3. 牧草が支える宮古牛

観光客をはじめ幅広く認知されている宮古地域の地域ブランド牛である「宮古牛」ですが、その飼料となる牧草は、**水をかけない場合は、年4回程度の収穫回数ですが、水をかけた場合、年6回程度の収穫が可能**となります。※近年の円安物価高で飼料価格が高騰するなかで本事業は、畜産農家の経営安定に寄与しています。



反転機械(ローズグラス)

本地域では、年中生い茂る草地や豊富な水など和牛の繁殖に適した条件を生かし、地域ブランド牛が生産されています。温暖な気候で育てた牛は、大変美味。



飼料作物の栽培状況

ここがポイント！

国営事業により安定して水やりが可能となり、自給飼料の生産量が増加し、経営の安定と規模拡大が可能となった。沖縄本土や宮古島市から担い手の受け入れを行っており、**担い手の育成にも取り組んでいるよ。**

※農家からの聞き取による回数(R6年時点)



畜産農家
(下地)

地下ダムが支える宮古島の農業

効果4. 大人気の宮古島マンゴーを支える地下ダム

マンゴーといえば宮古島。南国の温暖な気候で栽培されたマンゴーは、トロピカルな甘い香りで、真っ赤に色づいた果実は、南国情熱そのもの。そんなマンゴーを育てているのは、台風や干ばつに負けず、宮古島マンゴーブランドを築き上げた情熱を持った宮古島の農家さんです。その農家さんを支えるのが、地下ダムなどの農業水利施設であり、施設を管理する土地改良区の皆さんです。

沖縄総合事務局としても、安定して送水でき、維持管理しやすい施設を情熱を持って設計・建設してまいります。

ここがポイント！

マンゴーは時期によっては、かなり水をかける必要があります。これをトラックで運搬するのは大変です。地下ダムの完成で水やりの重労働から解放されました。宮古島には若く情熱をもったマンゴー農家(担い手)がいっぱいいます。そんな農家がいる宮古島を見ていると幸せな気分になります。

マンゴー栽培の様子



マンゴーへの水やり



マンゴー農家
(上野)

地下ダムが支える宮古島の農業

効果5. クリスマスには宮古島産メロンはいかがですか。

近年、都内の高級フルーツ販売店等でも取り扱われるなど、有名産地に負けない品質で評価されている宮古島産メロン。

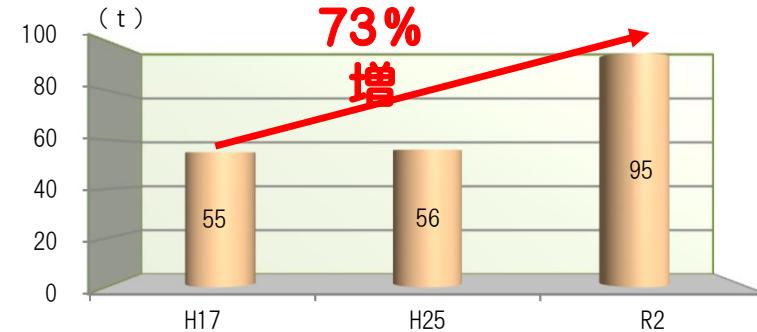
冬場に出荷できることに加え、水はけのよい赤土と地下ダムの水を活用し生産されていることもPRできるポイントの一つとなっています。

本事業では、宮古島で通年取水が可能となるように、新たな水源である仲原地下ダムや保良地下ダムを建設しています。

ここがポイント！

本事業では、宮古島で通年取水が可能となるように、新たな水源である仲原地下ダムや保良地下ダムを建設しています。

宮古島メロンの出荷量



宮古島産メロン



事業所職員

地下ダムが支える宮古島の農業

効果6. “宮古島の食”を支える宮古島農業を下支え

宮古ブルーの澄んだ海もいいですが、“宮古島産食材を使った料理”を楽しみにしている旅行者は少なくありません。宮古島の直売所あたらす市場には、かんがい施設が整備された圃場で育てられた野菜や熱帯果樹が提供されています。その食材を利用して料理を提供する島内のホテルやレストランも少なくありません。

この市場で食材を購入するのは、観光客や事業者だけではなく、地元住民も数多く、地産地消を後押ししています。



あたらす市場

ここがポイント！

市場の売上金額及び宮古島市観光客数



島内で生産された野菜は、観光客に食を提供するホテルやレストランが購入していることから、それらの企業に地元産の食材を使ってもらうよう宣伝していくことが重要です。観光客にも喜ばれますし、販売先の安定化を図ることで、農家の安定生産に繋がるものと考えます。



地下ダムが支える宮古島の農業

効果7. 学習の場の提供・都市と農村の交流人口の拡大

地下ダム資料館や地下ダムの地下水観測施設などの施設では、小学生などを対象とした見学会等が開催されるなど、水の大切さを教える学習の場としても活用されています。また、本地域では、修学旅行生を対象とした民泊、農業体験、郷土料理体験等が行われており、農業を通じた交流人口の拡大に貢献しています。

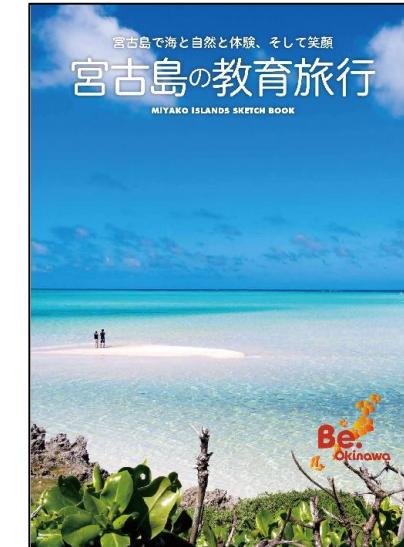
地下水観測施設



農業体験



教育旅行パンフレット



ここがポイント！

都市部からの修学旅行生が民泊や農業体験を通じて、農業・農村に対する理解を深めてもらうことは大変重要だと考えます。本事業では、その生徒達が見る農村の景観や農業体験の場を形作るという一面もあります。都市・農村交流を促進することは、重要な取り組みであります。



専門家
(事業評価時)